



会 林 勉  
議員

### ▼島原市の魅力発信に「ふるさと納税」の活用を

Q ふるさと納税はどのような制度か。  
A 出身地や応援する自治体に対して寄附すると、寄附金のうち二千元を超える部分について、一定の上限までは原則として所得税と個人住民税から全額が控除される仕組みとなっている。

Q 寄附の返礼としてどのような品物を送っているのか。また選択できるか。  
A 一万円から十万円までの方には、二千元相当の地場の産品を、十万円以上の方には一万円程度の地場の産品を送っている。選択制にはなっていない。

Q 還元率とポイント制について、どう考えているのか。  
A 還元率については検討する余地があると思うが、ポイント制は経年による問題点等があり研究中である。

Q ふるさと納税を利用して、島原の魅力の情報発信はできないのか。  
A ふるさと納税のPRと合わせて、観光や歴史など、島原の魅力の情報発信につなげていきたい。

### ▼公共下水道・浄化槽設置について

Q 浄化槽の設置状況と普及率、設置に対する補助はどうか。  
A 平成二十五年までに設置されている合併処理浄化槽は五千二百三十八基あり、汚水処理人口普及率は三十八・五％である。補助の対象は、五人槽で三十三万二千元、六人槽から七人槽で四十一万四千元、八人槽から五十人槽で五十四万八千円の補助金額となる。

Q 公共下水道の検討状況はどうか。  
A 公共下水道だけでなく、合併処理浄化槽やコミュニティプラントを含めて、規模の縮小や見直しを行っている。できるだけ市の負担が小さくなるような検討を行っているため、もう少ししばらく時間をいただきたい。

### ▼現状と今後は

Q ①庁舎建設計画、②めぐりあい事業、③子供の携帯使用の現状と今後は。  
A ①年内に設計業者を選定し、平成三十一年からの業務開始を目指す。②今後も継続して出会の場を提供していく。また、新たに「しまばらハッピーライフ応援事業」も始まるので、結婚から子育てまで切れ目のない支援を行うために、中身を充実させたい。③家庭でのルールづくりが大事なので、指導を徹底したい。

Q 多額な財政負担であるが、これに取り組む姿勢がないと、人口減少に歯どめがかからないと思うがどうか。  
A 人口を増やす意味では、保育料を多少緩和することは検討に値すると考えている。



会 種 村 繁 徳  
議員

### ▼地域労力支援システム構築推進事業について

Q この事業は、農産物を収穫する際の労働力確保に大いに利用されているか。本年度で終わるが、今後どうなるか。  
A 今後も大いに活用したいと思っており、県、半島三市、農協が一体となり、今後の取り組みについて検討している状況である。

### ▼保育料の無料化について

Q 現在、第三子から保育料が無料だが、一人目から無料にすると、市の負担はどのくらい増えるのか。  
A 現在の保育料の軽減額は約五千四百万円だが、これを第一子から実施した場合、新たに三億四千万円程度が必要と試算している。

Q 多額な財政負担であるが、これに取り組む姿勢がないと、人口減少に歯どめがかからないと思うがどうか。  
A 人口を増やす意味では、保育料を多少緩和することは検討に値すると考えている。

### ▼過疎地域自立促進計画について

Q 人口減少や少子化の問題に対し、具体的に対策を考えているのか。  
A 転出を減少させるため、雇用の場の確保や技術習得などの人材育成、また、住まいや通勤に対する支援を行うとともに専門学校等の誘致が考えられる。転入の増加のため、空き家バンクの創設、転入者に対する家屋の改修費用や引っ越し費用の支援も考えている。

### ▼農地の確保について

Q 本市では、過去五年間で約二十五ヘクタールの農地が転用されており、特に二十四年度から急激に転用がふえている。農業委員会としては転用を厳しくする必要があるのではないかと。  
A 農地法で転用を許可する基準が定められており、その基準により申請が出された場合は許可を出さざるを得ないと思っっている。

### ▼観光客の駐車場確保について

Q 四明荘や鯉の泳ぐまちがある新町に観光客がふえているため、大型バスの駐車場確保が必要だと思いがどうか。  
A 新町周辺にはないが、近隣のゆとろぎの湯の駐車場に三台のスペースを確保し利用していただいている。